

講演②

首都圏におけるCO₂濃度観測によるCO₂排出量の逆推定

大山 博史

講演概要

温暖化の原因と考えられている温室効果ガスのうち、人間活動に伴う二酸化炭素やメタンの排出量の約7割を都市部が占めています。そのため、パリ協定のような国際的枠組みのもとで実施されている温室効果ガス排出量削減策の有効性を評価するためには、都市部の排出量を正確に把握することが重要です。本講演では、首都圏で取得した大気中の温室効果ガス濃度のデータ(結果)から、二酸化炭素の排出量(原因)を推定する方法とその結果について紹介します。また、2025年6月に打上げられた日本の温室効果ガス・水循環観測技術衛星(GOSAT-GW)のデータを使った、今後の解析の展望についてもお話しいたします。

講演者略歴

高校生の頃の自分への、
環境問題を自分ごと化するためのアドバイス

二酸化炭素がどこからたくさん出ているか考えてみよう。
排出を抑えるために自分にできることはあるかな？

大山 博史 (おおやま ひろふみ)

地球システム領域 衛星観測研究室/主幹研究員

神戸大学大学院自然科学研究科博士課程修了(2009年3月理学博士)。宇宙航空研究開発機構地球観測研究センター宇宙航空プロジェクト研究員、名古屋大学宇宙地球環境研究所研究員、国立環境研究所地球環境研究センター研究テーマ型任期付研究員等を経て、2026年7月より現職(地球システム領域衛星観測センター兼務)。日本の温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)シリーズの温室効果ガス濃度プロダクトの検証やデータ解析に従事するとともに、地上設置及び衛星搭載分光装置のデータを使った温室効果ガスの排出量推計に関する研究を実施。